

嵯峨御流

一木一草に息づくいのちと、あなたの心の姿がここに 있습니다。

あ
な
た
の
花
が

見
つ
か
る
。

SAGAGORYU SPECIAL COURSE SCHOOL



古都嵯峨野にて、**花**に親しみ日本の心をいける。



伝統文化を現代社会に
そして世界に一。

異文化交流が盛んになり、我が国の伝統文化を発信する機会も多くなってまいりました。平安文化発祥の地、嵯峨野・大覚寺を母体とする当校の文化・教養専門課程では、日本の伝統文化の根幹となる華道嵯峨御流を通して、広く芸術に関する専門知識や技術を一年間で習得できるよう、嵯峨御流トップの講師陣によるきめ細やかな教育・指導を行なっております。



伝統の型、そして…



生花



盛花

カリキュラム

専門 科目

- 華道実技・理論
(伝承花・心粧華)
- 植物観察
植物写生

教養 科目

- 宗教
- 陶芸

芸術 科目

- 書道
- 茶道
- きもの和装学

その他

- 寺内・野外研修
- 伝統行事への参加

※実費負担の場合が
ございます

主な 参加行事

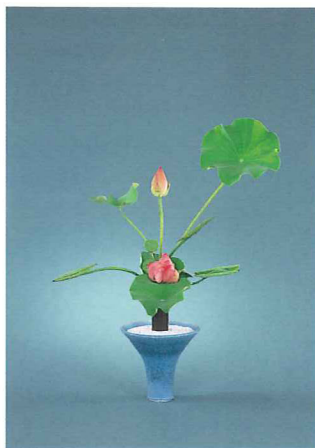
- 4月 華道祭
- 5月 高野山参拝
- 6月 青葉祭・寺内研修
- 9月 観月の夕べ

- 10月 嵐山もみじ祭
- 11月 野外研修
- 1月 花手前
- 2月 大覚寺星供節分会
卒業華展

嵯峨御流には形式を重んじる伝承花(生花、盛花、瓶花、荘厳華)と、より未来感覚にマッチした新鮮な感性でいけられる心粧華(折り花、才の花、想い花)があります。伝承花には万物が生成される宇宙の摂理に基づく、伝統的で潜在的な美の形式が隠されており、この型を学ぶことにより美への感性を高めます。さらに、単にいけばなの形式を学ぶだけでなく、大自然と人の心が融合する“すがた”を再現し、美への感性、さらには自然を尊び、感謝する心を養います。



瓶花



荘厳華

1年間を通して…

授業日

毎週月曜日～金曜日

夏期休暇/7月第3週土曜日～8月31日

冬期休暇/12月第2週土曜日～1月9日

授業時間

10:00～16:00(1日4時限)

※月曜日は9:50～



授業風景

日本の伝統…

資格取得

華道

いけばな嵯峨御流
正教授資格

※正教授とは、門下に指導することができ、なおかつ門下の許状を申請することが可能な資格のことです。

- 茶 道 表千家または裏千家 許状
- 書 道 嵯峨書道学院 許状
- 和装学 日本和装師会 認定書



青葉祭献華式

メッセージ

message

伝統文化を残す一。

嵯峨華道専門学校
平成17年度卒業

越見慎一郎さん



旧嵯峨御所大覚寺で一年間学ぶことが出来、日本文化の大切さ、そして日本の四季の美しさを肌で感じることができました。さまざまなことを教えてくださった諸先生方、貴重な体験をさせてくださった大覚寺の方々、いつも優しく助けてくれた仲間たちに本当に感謝します。この経験を糧に嵯峨御流の素晴らしさを、より多くの人々に伝えていきたいです。

日々感嘆一。

嵯峨華道専門学校
平成18年度入学

角幸母さん



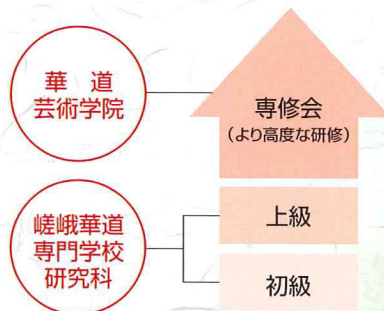
4月の入学以来、毎日新鮮な驚きと感動に包まれ、嵯峨御流の持つ美しさに魅了されています。脈々と伝わる嵯峨天皇の精神を学び、歴史ある大覚寺で色々な体験をし、今まで知らなかった自分を発見できたことも喜びです。授業では温かく、そして力強く指導して下さい下さる先生方と、一緒に学ぶ仲間との出会いのおかげで、楽しく充実した毎日を送っています。

華道指導者として…

特典

卒業時に嵯峨御流本所副講師資格が
認定されます。

※副講師資格とは、嵯峨御流華道総司所にて研究科上級クラスを受講する際に必要な資格です。



嵯峨御流

大覚寺の歩み

およそ一二〇〇年前、嵯峨天皇はこの嵯峨の地をこよなく愛され、離宮嵯峨院を建立されました。嵯峨天皇は唐より帰朝した弘法大師とのご厚誼深く、弘仁九年（八一八）の大飢饉に際しては、弘法大師の勧めにより、天皇自ら般若心経の浄写をされ疫病の退散を祈られました。このときの宸翰・般若心経は、現在も勅封心経として心経殿に護り伝えられており、現在の大覚寺が「心経写経の道場」といわれる由縁です。

貞観十八年（八七六）、この離宮嵯峨院が寺に改められ大覚寺が誕生しました。初代の住職（門跡）は嵯峨天皇の皇孫であり淳和天皇の第二皇子である恒寂法親王です。

栄枯盛衰の歴史の中、徳治二年（一三〇七）には、後宇多法皇が入寺され大覚寺の門跡となり衰退した大覚寺の再興に尽力、壮大な寺域を有する伽藍を造営されましたが、南北朝の動乱に巻き込まれほとんどの堂宇を焼失してしまいました。

その後、安土桃山時代から現在まで再び復興の努力が続けられ、宸殿や正寝殿、御影堂など宮中の建物のご下賜を受けて移築するなど、御所の趣を彷彿とさせる今日の寺観が整えられました。

嵯峨御流の歩み

嵯峨御流いけばなは、平安のはじめ、桓武天皇の第二皇子で後の嵯峨天皇が大沢池の辺りに咲く可憐な一本の菊の花を手折り、花瓶に挿して兄の平城天皇にご覧いれられたことに始まります。

この一輪に宿る生命を愛（め）でる心、さらに自然や草木そして隣人を慈しむ心が、嵯峨御流いけばなの精神として一二〇〇年の時を超え、今日に受け継がれています。

嵯峨御流いけばなは「伝承花」と「心粧華」からなり、伝承花には「生花」「盛花」「瓶花」「荘厳華」の四つそれぞれの時代を担う様式花と、瓶花・盛花の手法でいける文人趣味の「文人華」があります。これらは伝統的な約束事を尊び、格调高くいけるものです。

一方、心粧華は伝承花の形姿や理念などを踏襲しながら、植物固有の美しさをいける人の心に映じた粧いを通じて新鮮な感覚でいけ表す花です。その心粧華には「祈り花」「オの花」「想い花」のいけ表し方があり、多様な花姿からさまざまな花表現を可能にし、現代の生活文化の花飾り場所にも調和し、新しい花空間を美しく描き出します。

いずれにしても、一木一草に息づく大宇宙の生命の姿を理（ことわり）として抱きながら、瑞々しい花をいけ表すことがいけ花の基本であり、そのなかで自然と人間との調和、さらには社会の浄化をめざす心が、当流の伝統的精神なのです。



嵯峨華道専門学校

SAGAGORYU SPECIAL COURSE SCHOOL



出願
お問合わせ先

嵯峨華道専門学校事務局

〒616-8411 京都市右京区嵯峨大沢町4 (大本山大覚寺)
(075) 871-0181 (直通) 月～金曜の9時～17時受付

<http://www.sagagoryu.ac.jp/>
info@sagagoryu.ac.jp